

韓 国 論 調

◎物議をかもす遺骨奉還問題

慰霊塔の建立を「提言」する

新民党議員の建議案提出

太平洋戦争で戦没した韓国人の遺骨奉還問題がいま、物議をかもしている。これは才二次世界大戦当時、日本が戦争遂行のために韓国人をも徴兵したことで起きた問題であるが、戦争は多くの人命を奪い、終戦当時、日本政府は、韓国人の遺骨は二万一千九百十人だと発表した。しかし、このたび日本政府が韓国に送ってくる都合してきた遺骨は二千八十三位だけで、しかも日本政府は韓国人戦没者の遺骨を三十年余りも日本の厚生省倉庫に放置したままにしておき、今度才二次分として二千八十三位だけを四十位ずつ一つの箱につめて送ってくるというのである。これに対し、韓国の才一野党である新民党は国会に建議案を提出、「韓国政府は日本側がすみやかに韓国人遺骨の全部を故国のふところに奉還し、かつ補償金を支払うよう促求すべきである」と述べて、なお、提案理由には「日本政府が一言の謝罪もせずに、ただ一位当たり日貨一万円の線香代を支払うだけ、という態度に出たことは民族的公憤を禁じえない」と記している。

太平洋戦争で戦没した韓国人の遺骨は、七一年十一月に解放後をはじめ、民間団体を通じて二百四十六位だけが奉還された。これに次いで現在、東京の祐天寺に保管されている遺骨二千八十三位が三月十日ごろに

遺族に奉還されることになつていた。これはさる一月韓日兩國政府の間で合意をみたものであるが、日本側の縁故者うんぬんの主張で奉還が遅れている。

この遺骨奉還問題は先月(三月)国会の外務委員会でも論議されたが、今月十六日には新民党所属議員たちが「韓国人戦死者の英霊奉還と補償措置に対する促求建議案」を国会に提出した。この遺骨はいうまでもなく、すぎし日に日本の侵略戦争に軍人軍属などとして強制連行され、日本で、あるいは太平洋地域で「不当の犠牲」に会つた人びとのなきがらである。

▽才一次奉還は二百四十六位

太平洋戦争当時、日本が行つた徴兵、徴用、挺身隊などの名目による韓国人強制連行をらびにその犠牲問題は関係文献が隠蔽されてしまつたり、あるいは未整理のまま放置されていたりして、詳しい全容は明らかでない。しかし、内外の幾人かの研究者たちの調査によると、いわゆる「労務供出」として日本に強制連行された韓国人労務者は七十万人ないし百万人で、このほかに約三十七万人の韓国青年たちが日本の旧陸、海軍の軍人軍属として引つぱられた。そしてこの三十七万人のうち約十五万人は行くえ不明になつてゐる。とにかく太平洋戦争当時の日本兵戦死者のうち三分の二は遺骨がまだ発見されていないといわれているが、そのうちにはかなりの数の韓国人も含まれてゐるに違ひ

なり。

韓国人戦死者の数については、日本政府が敗戦直後に二万二千人余りだと発表したことがあった。なお、強制労働の犠牲者は四万ないし六万人と推算されている。

これらの韓国人犠牲者のうち、日本の厚生省の倉庫に保管されてきた二千三百二十九位の軍人軍属の遺骨は七一年六月祐天寺に移されたが、そのうち韓国内の縁故者が確認された二百四十六位は才一次分として韓国に奉還されてきた。

▽遺骨の一括引き渡しをちゅうちよ

残りの遺骨の奉還を前に、政府は縁故者を探したが、三月末現在の申告者はたつたの九百五十七人で、これは四六%にしかならない。そのため、日本側は遺骨全部を引きわたすことをためらい、才二次分の奉還は延び延びになっている。

日本との間で行われてきた遺骨引き渡し交渉の過程において日本側はずつと、日本の国内法体系の遺族主義をあげて縁故者のある遺骨だけを引き渡すと主張してきたものである。しかし、この問題は日本の国内法体系の次元で取扱うべき性質のものではない。いうまでもなくこの「遺骨」は歴史的性格を持つものであるから、そうした角度からみなければならぬ。それにくらべて焼香もしくせに、何もいつまでも日本に

縛りつけておく理由は何もないではないか。

日本側が遺骨の一括引き渡しをちゅうちよしているウラには対北韓関係への考慮があるのかも知れないが、それでは韓日基本条約の精神に違反する。遺骨の大部分は南韓出身者のものである。それに北韓住民だった縁故者の多くが南下している事実があることを見のがしてはならない。

補償問題については請求権協定によって一応解決したことになっており、政府間の遺骨交渉過程では論議されていまいといわれる。しかし新民党の国会建議案には補償問題も含まれているし、共和党側もこの問題では原則的に賛成しているから、やがては補償がなされるものと期待される。

#### ▽補償問題は政府の責任

日本政府は七一年の奉還のさい遺骨一位につき日貨一万円ずつを支給したが、これは政治的道義的責任を尽くしたとはいいがたい。だが、補償問題の責任は政府にある。太平洋戦争戦没韓国人たちのすべての問題は韓日国交正常化とともに即時実践されてしかるべきことの一つである。にもかかわらず、遺骨奉還は、これまで放置されてきたのが在日僑胞の遺骨奉還会と釜山霊園など民間団体の献身的努力により実現された。すみやかに英霊奉還をすすめ、どこかに慰霊塔を建立するよう提案する。

(東亜日報 || SIS A)